

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
木造住宅耐震補助事業	都市建設部	都市計画課	宅地建築班

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
耐震診断実施数	件	12	0	12		12	
耐震改修実施数	件	6	0	6		6	

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	住宅耐震相談会においては、6回の開催予定に対し4回の開催で市民の相談者件数は5組であった。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	耐震の必要性を市民が認識する上で、また、地域防災にもつながることから、今後も国・県からの補助制度の動向も見ながら事業を継続していく。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	4030219
-------	----	------	---	-------	---------

➔ 【継続】の場合の区分	継続
--------------	----

部等名	課等名	班等名
都市建設部	都市計画課	宅地建築班

事業(予算)名	空家等対策事業
---------	---------

総合計画体系	施策の大綱	第4章 人と自然が調和し、安全安心なまち						
	施策	施策3 安心できる地域社会を築く防犯・安全対策の充実						
	施策の展開	(2) 安心して暮らせるまちづくり						
予算科目	会計	一般	款	7	項	2	目	1
関連計画・根拠法令等	富里市空家等対策計画、空家等対策の推進に関する特別措置法							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	H28				-			

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	空き家が抱える現状や課題は大きな社会問題となっており、そのため空家等対策の推進に関する特別措置法が平成27年に全面施行された。富里市においても空家等への対応を図るため、平成28、29年度に実態調査を行い空家等対策計画の策定や空家活用制度の制定を行った。今後は、空き家を増やさないための方策の推進が必要となってくる。						
	対象(誰・何を)	市民、空き家						
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	空き家活用ニーズ調査のためのアンケートの実施 空き家活用制度の運用 空き家再生等推進事業による補助金交付の検討						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input checked="" type="checkbox"/> その他の民間活用 (千葉県宅地建物取引協会印旛支部)						
	事業手法選択の理由	空き家活用のためのバンクについては、一部民間機関との協力関係の構築が必要となる						
	協働の取組	有	協働の取組内容	千葉県宅地建物取引協会印旛支部と協定締結				

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		H30年度	R元年度	R2年度	
空き家計画の策定	件	策定			市の空き家に対する指針となるため
アンケート調査	件	641			空き家所有者ニーズの把握のため
空き家バンク登録	件	10	10	10	登録の推進が第一段階のため
後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度		指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由
総合戦略における指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
		()			
		()			
		()			

事業(予算)名		部等名		課等名		班等名	
空家等対策事業		都市建設部		都市計画課		計画班	
指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	空き家計画の策定	%	策定	100			
	アンケート調査	件	641	341			
	空き家バンク登録	件	10	5	10		10

評価	平成30年度	事業効果	非常に効果的であった
		判断理由	計画策定によって、空き家に対する市民の意識が高まり、バンク登録制度を開始したことによる空き家、その可能性のある建物の利活用への実績につながった。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	空き家バンクへの登録を後押し、利活用の促進並びに適正に管理されていない空き家、その予備軍に対し、管理の適正化を促すと共に、空き家を増やさないための研究と住環境の保全に取り組む。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

第四次実施計画事業シート

新規・継続 継続 主要事業 ○ 事業コード 5010119

➔ 【継続】の場合の区分 継続

部等名	課等名	班等名
都市建設部	都市計画課	計画班

事業(予算)名 都市計画策定事業

総合計画体系	施策の大綱	第5章 市民のこころをむすび、可能性を未来につなぐまち
	施策	施策1 市の持続的な発展を支える市街地の整備と計画的土地利用の推進
	施策の展開	(1) 拠点となる市街地の整備と機能誘導

予算科目	会計	一般	款	7	項	2	目	1
------	----	----	---	---	---	---	---	---

関連計画・根拠法令等 都市計画法、都市緑地法、景観法

事業期間	開始年度	開始する理由	終了予定年度	終了する理由
	—	まちづくりの基本的な方針である都市計画マスタープランの改定し、関連する緑の基本計画の見直しと景観まちづくり推進の為、景観計画を策定する。	—	

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	都市計画マスタープラン、緑の基本計画策定から15年以上が経過し、計画期間が間もなく方流を迎えようとしている。社会情勢も策定当時とは大きく変化し、人口減少、少子高齢化に対応する新たなまちづくりの方針策定が必要であり、それに関連する緑の基本計画についても見直しが必要となる。また、景観に対する市民のニーズも高まっており、景観行政団体へ移行し、景観計画の策定を図り、本市の景観資源の保全とそれに調和した景観を誘導していく。		
	対象(誰・何を)	市民、事業者		
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	○「都市計画マスタープラン」の見直し 現計画期間が平成32年であり、社会情勢の大きな変化、人口減少、少子高齢化に対応した新たなまちづくりの方針を策定する。 ○「富里市緑の基本計画」の調査研究並びに計画の見直し 市民の共有財産である緑を守り育てるため、本市の将来の緑のあり方や緑地の保全や緑化の推進の実現に向けた考え方を示し、人と緑が調和し、未来を拓く臨空都市とみさとの実現に向け計画の推進を図る。 ○「富里市景観計画」の新規策定 市民の共有財産、資源である美しき景観を保全していくため、都市計画に整合した開発、建築行為が景観計画に即した内容であるかをチェックし、景観を損なわない建築物などの誘導を図る。		
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ()		
	事業手法選択の理由	都市計画マスタープラン、緑の基本計画及び景観計画策定については、専門的見識、技術力を必要とする作業であるため。		
	協働の取組	有	協働の取組内容	パブリックコメント等を実施し、市民の意見を計画に反映させる。

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		H30年度	R元年度	R2年度	
都市計画マスタープラン改訂	—	策定			現計画内容の見直しのため
調査(緑の基本)		研究	研究	研究	現計画内容の見直しのため
調査(景観計画)	—	景観行政団体移行	研究	研究	景観計画を新規に策定するため
後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度		指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由
総合戦略における指標等	単位	基準値(年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
		()			
		()			
		()			

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
都市計画策定事業	都市建設部	都市計画課	計画班

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
都市計画マスタープラン改訂	—	策定	策定済み				
調査(緑の基本)		研究	研究	研究		研究	
調査(景観計画)	—	景観行政団体移行	移行済み	研究		研究	

評価	平成30年度	事業効果	非常に効果的であった
		判断理由	2036年を目標年次とした都市計画基本方針として、「未来へとつむぎ、輝き、はばたく 笑顔あふれる とみさと」を将来像に掲げ、全体構想と地域別構想との整合を図りながら、本市の実情に合わせた将来像及び実施すべき施策の方向性を明らかにした。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	都市計画マスタープランの改訂に伴い、関連する緑の基本計画の見直し、併せて景観計画の策定に向けて。調査、研究を行う。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

事業(予算)名		部等名		課等名		班等名	
区画整理総務事業		都市建設部		都市計画課		都市整備班	
指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	研修参加人数	人	3	3	3		3
	進捗率	%	46.9	46.9	51.5		58.9

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	事業の推進により、都市基盤施設の整備改善及び宅地利用の増進を図ることができた。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	七栄北新木戸土地区画整理事業の完了まで継続する。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

事業(予算)名		部等名	課等名		班等名			
七栄新木戸地区土地区画整理事業		都市建設部	都市計画課		都市整備班			
指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度		
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
第四次実施計画	事業費	千円	29,063	30,301	70,250		105,547	
	進捗率	%	47	47	48		50	
評価	平成30年度	事業効果	効果があった					
		判断理由	事業の推進により、都市基盤施設の整備改善及び宅地利用の増進を図ることができた。					
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続					
		今後の方針の理由及び今後の予定	成田国際空港都市圏の一翼を担う地区として期待されており、市の玄関口に相応しい良好な市街地の形成と都市計画道路を始めとする公共施設の整備改善を目的とした公共性の高い事業として、市施行による土地区画整理事業を推進する。					
	令和元年度	事業効果						
		判断理由						
		実績値を踏まえた今後の方針						
		今後の方針の理由及び今後の予定						
	令和2年度	事業効果						
		判断理由						
		実績値を踏まえた今後の方針						
		今後の方針の理由及び今後の予定						

第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	○	事業コード	5020119
-------	----	------	---	-------	---------

➔ 【継続】の場合の区分

継続

部等名	課等名	班等名
都市建設部	都市計画課	都市整備班

事業(予算)名	街路整備推進事業							
総合計画体系	施策の大綱		第5章 市民のこころをむすび、可能性を未来につなぐまち					
	施策		施策2 活力を呼び込む交流基盤の整備					
	施策の展開		(1) 幹線道路の整備					
予算科目	会計	一般	款	7	項	2	目	4
関連計画・根拠法令等	都市計画法、道路法							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	H27				R8	都市計画道路3・4・20号成田七栄線及び市道1-0150号線の完成		

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	都市計画道路3・4・20号成田七栄線は、東関東自動車道富里ICと成田市を結ぶ路線として本市の骨格を形成するための重要な路線であるが、現道の一部が狭隘なことから、歩行者や自転車通行が危険な状況となっている。また、慢性的な交通渋滞が発生しているため、路線バスや救急車等の円滑な通行の妨げとなっている。						
	対象(誰・何を)	市民						
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	都市計画道路3・4・20号成田七栄線は、都市における円滑な移動の確保、良好な市街地の形成、災害時の防災性の向上など多様な機能を有しており、将来にわたって市民生活の向上や市内経済活動の持続的発展を支える重要な路線であることから、早期の完成を目指す。						
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ()						
	事業手法選択の理由	専門的作業となる測量、設計、調査、工事について民間事業者へ発注する。また、用地取得については、限られた財源を有効活用し円滑な事業の推進を図るため、千葉県地方土地開発公社による用地取得の一部を委託する。						
	協働の取組	無	協働の取組内容					

指標	指標	単位	目標値			指標として設定する理由
			H30年度	R元年度	R2年度	
	都市計画道路3・4・20号成田七栄線整備進捗率(事業費ベース)	%	17	18	24	事業の進捗状況を市民に解りやすく伝え、計画的な市民経済活動に寄与するため
	後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
	総合戦略における指標等	単位	基準値(年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
	都市計画道路3・4・20号成田七栄線整備進捗率(事業費ベース)	%	0% (H26)	75%	指標	安心安全な市民生活と機能的な都市活動を確保し、「しごと」「ひと」の好循環を生み出し「まち」の活性化に寄与する。
		()				
		()				

事業(予算)名		部等名		課等名		班等名	
街路整備推進事業		都市建設部		都市計画課		都市整備班	
指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	都市計画道路3・4・20号成田七栄線整備進捗率(事業費ベース)	%	17	17	18		24

評価	平成30年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	用地買収について、ほぼ目標値を達成した。 8筆(地権者4名)
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	都市計画道路3・4・20号成田七栄線は、都市における円滑な移動の確保、良好な市街地の形成、災害時の防災性の向上など多様な機能を有しており、将来にわたって市民生活の向上や市内経済活動の持続的発展を支える重要な路線であることから、早期の完成を目指す。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

第四次実施計画事業シート

新規・継続 継続 主要事業 × 事業コード 5040119

→【継続】の場合の区分 拡大

部等名	課等名	班等名
都市建設部	都市計画課	都市整備班

事業(予算)名 公園緑地管理事業

総合計画体系	施策の大綱		第5章 市民のころをむすび、可能性を未来につなぐまち					
	施策		施策4 都市の潤いを保つ公園・緑地の整備					
	施策の展開		(1) 公園の整備					
予算科目	会計	一般	款	7	項	2	目	2
関連計画・根拠法令等								
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	-				-			

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	公園・緑地を良好に管理するため、公園施設等の点検、巡回、公園施設の整備・修繕、清掃、除草、植栽管理等の維持管理及び市民による公園管理協定に関する業務を行っているが、老朽化する公園施設の維持や作業用機器の更新が課題となっている。また、高齢化により市民との管理協定においても継続が困難な団体もあり、今後ますます増加していくことが懸念される。		
	対象(誰・何を)	市内の公園施設・緑地 市民及び管理協定団体		
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	①都市公園施設の長寿命化計画の策定による計画的な修繕や作業の主軸として使用している老朽化した乗用芝刈機(平成10年6月購入)を更新することにより良好な公園管理を継続する。 ②日吉台宅地間植樹帯を直営管理することにより市民負担の軽減及び良好な緑地管理を継続する。		
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用()		
	事業手法選択の理由	①計画策定においては、施設の診断等の専門的な知識が必要であるため委託が必要である。 ②今後ますます高齢化社会が進む中で直営管理することにより市民負担の軽減や管理の継続が図れる。		
	協働の取組	有	協働の取組内容	管理協定において継続可能な自治会等と再締結することにより無理のない協働の取り組みを実現する。

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		H30年度	R元年度	R2年度	
市内公園数	箇所	118	119	120	対象施設
公園管理協定締結公園数	箇所	75	77	78	協働の推進
計画策定公園数	箇所		13		計画的な管理計画
後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
市内公園数	箇所	113	120	暮らしやすい地域づくりのため、身近な憩いの場の確保に寄与	
公園管理協定締結公園数	箇所	74	78	地域の自主管理による協働の取り組みの推進に寄与	
総合戦略における指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
		()			
		()			
		()			

事業(予算)名		部等名		課等名		班等名	
公園緑地管理事業		都市建設部		都市計画課		都市整備班	
指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	市内公園数	箇所	118	118	119		120
	公園管理協定締結公園数	箇所	75	75	77		78
	計画策定公園数	箇所			13		

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	市内公園数の増加 公園管理協定締結公園数の維持
		実績値を踏まえた 今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由 及び今後の予定	老朽化する施設の保全などかかる費用は増加する背景もあるため、 経費削減を図るための検討を行っていく。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた 今後の方針	
		今後の方針の理由 及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた 今後の方針	
		今後の方針の理由 及び今後の予定	